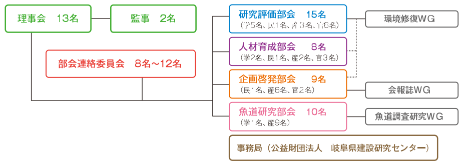
組織図　研究会を支える委員会と4つの組織



研究評価部会

自然共生および工法についての調査、研究、助言を行います。
基盤整備についての指導、助言を行います。
自然共生工法認定制度のあり方や研究の進め方について指導・助言を行います。
調査研究助成の紹介を行います。

人材育成部会

会員や自然共生に携わる人材の育成を行います。
勉強会などの育成イベントの企画・開催を行います。
創意工夫等表彰の選考を行います。

企画啓発部会

自然共生思想普及のための啓発事業の企画・開催を行います。
会員相互の情報交換・外部への情報発信を行います。
会報誌の発行を行います。
協賛・助成等の企画・審査を行います。

魚道研究部会

研究会の目的を達成するために行うべき活動のうち、魚道に関することの研究を行います。
魚道の機能回復の実践を進めています。

部会連絡委員会

部会間の事業の調整を行います。

研究会会員の状況

■ 会員内訳（2022. 5. 31現在）

	法人会員	個人会員	合　計
産業界	167	1,177	1,344
学　界	―	11	11
民　間	1	16	17
官　界	7	91	98
学　生	―	5	5
合　計	175	1,300	1,475

■ 会員数の推移

	法人会員	個人会員	合　計
H13（2001）	161	331	492
H14（2002）	325	652	977
H15（2003）	351	797	1,148
H16（2004）	358	1,115	1,473
H17（2005）	337	1,294	1,631
H18（2006）	320	1,376	1,696
H19（2007）	300	1,437	1,737
H20（2008）	270	1,447	1,717
H21（2009）	263	1,483	1,746
H22（2010）	248	1,442	1,690
H23（2011）	233	1,424	1,657
H24（2012）	223	1,418	1,641
H25（2013）	217	1,386	1,603
H26（2014）	207	1,383	1,590
H27（2015）	200	1,368	1,568
H28（2016）	196	1,350	1,546
H29（2017）	193	1,338	1,531
H30（2018）	183	1,328	1,511
R元（2019）	179	1,320	1,499
R2（2020）	177	1,309	1,486
R3（2021）	175	1,300	1,475

研究会ではこんな支援をしています

◆活動助成・創意工夫支援・自主研究支援

自然共生に関する「活動」「工夫」「研究」を支援するため、3つの制度を創設し、自然共生に取り組む方を応援します。

❶共催事業助成制度	研究会に属する方の団体が開催する各種事業に10万円を上限に支援を行なっています。
❷創意工夫等表彰制度	研究会員が自然共生に関する創意工夫及び地域貢献を実施し、その成果が認められた方に賞状と副賞3万円を上限に授与しています。
❸調査研究助成事業	県内で調査研究を実施しようとする研究会員に対し、調査研究費の一部を5万円を上限に助成を行なっています。

会員であれば、どなたでも申請することができます。

※詳しくは、研究会ホームページをご覧ください。申請様式をダウンロードしていただくことができます。

◆岐阜県自然工法管理士を応援します。

岐阜県では、自然共生や環境保護活動に携わる県民の意識や知識の向上を図り、自然環境を保全するための人材の育成を目的に「岐阜県自然工法管理士」認定制度を実施しています。研究会は、自己研鑽のための勉強会や情報発信を行うことで、管理士の継続教育などを応援します。詳しくは、岐阜県の管理士認定事業ホームページをご覧下さい。

研究会員募集中

本会の趣旨に賛同いただける方でしたら、どなたでも入会していただけます。

- 特典1　研究会主催の講演会、勉強会等に参加できます。
- 特典2　自然共生に関する最新情報をお届けします。
- 特典3　自然共生の活動を行なう仲間と情報交換の場が増えます。
- 特典4　自然共生に関する活動や研究を支援します。
- 特典5　岐阜県が認定する自然工法管理士の更新に役立ちます。

自然工法管理士の更新について

岐阜県自然工法管理士は自己研鑽として5年間に10単位を取得する必要があります。5年の間に本研究会に3年以上入会されるとおのずと自己研鑽が進むことから、「5単位」が免除される特典があります。（法人をのぞく）

会費（6月から翌年5月まで）：個人会員　年間　3,000円（学生　1,200円）
法人会員　年間　10,000円

申し込み・問い合わせ先

岐阜県自然共生工法研究会

〒503−0807　岐阜県大垣市今宿6−52−18　ワークショップ24　4階
ソフトピアジャパンエリア内　公益財団法人 岐阜県建設研究センター内
電話・FAX　0584−81−1340　E-mail gifu-shizen@deluxe.ocn.ne.jp
URL https://shizenkyousei.jp/

○このパンフレットは岐阜県河川協会の協賛により発行しています。

2022年度版

岐阜県
自然共生工法研究会

Gifu study group for nature symbiotic method of construction

「道の駅 清流白川クオーレの里」
加茂郡白川町　白川

令和3年度「清流の国ぎふ」づくり
自然共生工法写真コンテスト　優秀賞

山間を蛇行する河川に沿って、道路ばかりでなく微高地を親水性に優れた護岸整備等で護り、地域おこしの拠点にするような河川改修によって岐阜県の代表的景観である道の駅からの清流へのアクセスが整備されています。アングルが秀逸で、渓流で自然とふれ合いながら学べる場がとしてCOVID-19の下、まるで川が子供たちを待ちわびているかのごとき写真です。

「自然共生認定工法2」
高山市国府町　宮川

令和3年度「清流の国ぎふ」づくり
自然共生工法写真コンテスト　優秀賞

H16災の復旧工事としてこの約600m区間両岸水際に施工された、旧認定工法の緑化連節ブロック工法（アコール）によって、河岸法先までが草本植生で覆われてブロックが存在しないかのような植生の回復は意図通りの見事な成果です。写真は、自然共生の様子を良く伝えていて、青空と白雲、緑の山々と木々、河川の水面に河原と、撮影時期、アングル、色彩にも優れています。

ごあいさつ　「清流の国ぎふ」づくりに資する自然共生工法の発展、活動の充実に向けて

会長　藤田 裕一郎
（岐阜大学・名誉教授）

「岐阜県自然共生工法研究会」は、岐阜県の優れた生物相を支える水と緑に恵まれた県土の自然を保全・復元し、豊かな生態系を次世代に引継いでいくという目標を掲げ、法人175団体、個人1,300名の会員（令和4年5月31日現在）が自然との共生の将来を見据えた活動を継続している団体です。

本研究会は、21世紀最初の年の2001（平成13）年12月に岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」に「産・学・民・官の協働」で取り組むために誕生し、令和3年12月に設立20周年を迎えています。

「自然の水辺復活プロジェクト」は、「ものづくり」「人づくり」「現場での研究」「産学民官の協働」という4つの施策により、建設事業の現場を中心に県下の自然環境の創出や保全を効果的に進める取組みで、現在も続けられています。全ての生きものにとってなくてはならない「水」の豊かさが「自然との共生」の原点にあることから「自然の水辺」が取り上げられました。岐阜県には、本研究会設立の10数年前からの「多自然型川づくり」を嚆矢とする河川環境の保全再生事業に、全国に先駆けて「自然共生川づくり」の実践研究として取り組んできた歴史があり、同プロジェクトはそれをより系統的に推進する目的で開始されたものです。

自然の持つ環境機能の重要性について世間の関心が高まりつつあった当時とはいえ、経済性や施工性に主眼が置かれていた建設工事の現場に、まだまだ一般に馴染みの薄かった「自然との共生」を意識した技術や工法を浸透させようとした同プロジェクトの先駆性は極めて高いものでした。その背景には、「多自然型川づくり」は鋭意進められてきたものの、身近な水辺環境の劣化は思うようには止まらず、生物相がどんどん貧弱になっていく状況に強い危機意識を抱かれた先人の方々の強い想いと残された豊かな生態系を保全するために払われた環境劣化防止の多くのご努力があります。

本研究会は、同プロジェクト推進のために、産学民官が協働して「自然共生工法の実践研究」「自然共生工法の担い手の育成」「自然共生への意識変革」の活動を継続してきました。現在、自然共生の重要性は共通認識となっていますが、恵みを与えてくれる優しい自然ばかりでなく、激甚化・頻発化する「荒ぶる自然」との共生も図らねばなりません。また、未来を見据えて、SDGs、グリーンインフラ、流域治水、さらには、グリーン成長戦略といった時代のニーズにも微力ながら対応して参ります。

このように、今後も本研究会の担うべき役割は大きいと考えられます。県内外の皆様には、本研究会にご関心をお持ち下さり、種々の活動にご理解・ご協力を賜れますと幸いに存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

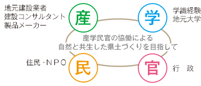
自然共生工法研究会設立の趣旨

自然環境に対する関心が高まる中、岐阜県においても産業界、学界、地域住民、行政の立場から自然との共生をテーマに様々な取り組みが進められています。

しかし、従来は相互の情報交換が不足していたり、十分な連携が取りにくい等、十分な効果がなかなか得られませんでした。

このような状況を改善するためには、産学民官が連携して、同じ枠の中で問題意識を共有し、現場で実践していける仕組みづくりが必要であり、既存の枠にとらわれない柔軟な組織が必要でした。

自然共生工法研究会は、この趣旨に則って、水と緑があふれ、多種多様な生物を育む自然豊かな岐阜県土の保全・復元を図り、次の世代にすばらしい県土を引き継いでいくために、産学民官の協働による自然と共生した県土づくりを目指して設立されました。



「清流の国ぎふ」づくり

岐阜県内の豊かな森林から生み出される水は、全国有数の美しさを誇る川から海に通ずる清流となり、豊かな海を育むとともに、岐阜県民に様々な恩恵をもたらしてくれます。県では、この清流を「守る」「活かす」「伝える」を柱に掲げ、清流を後世に残していけるような「清流の国ぎふ」づくりを推進しています。

“3つの柱”と“10の施策”（研究会に関係する部分）

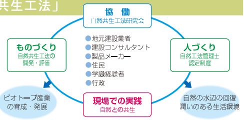
❶清流を守る
①生物が棲めるきれいな水を守る
②自然と共生した川をつくる
③「水みち」の連続性を確保する
④水を蓄え、土壌が流出しにくい山をつくる

❷清流を活かす
⑤森・川から生まれる環境価値を活かす
⑥森・川が育む豊かな自然環境を活かす
⑦森・川から生まれる県産品を活かす

❸清流を伝える
⑧清流を学び、次世代へ伝える
⑨県民協働による流域活動に参加する
⑩岐阜の清流を内外にPRする

「自然の水辺復活プロジェクト」と「自然共生工法」

自然の水辺復活プロジェクトとは、生物にとって重要な水辺を核に、「産学民官の協働」による「現場での実践」を通じて、「ものづくり」と「人づくり」を進め、岐阜県下における自然環境の保全や復元を図り、潤いのある生活環境を創出する取組です。「自然共生工法」はこれらを実現するための手法で、上述のとおり、本研究会はそれを具体的に実施していくために設立されました。本研究会で培われてきた「自然との共生」に係る手法や方法論が広く県の施策に活かされていくように努力していきます。



研究会ではこんなことをやっています

講演会（設立20周年記念事業）

開催日　令和3年12月1日（水）
場　所　ぎふ清流文化プラザ　長良川ホール（岐阜市）
特別講演　**演題**：『よみがえれ神の鳥 ライチョウ復活を目指して』
講師：（一財）中村浩志国際鳥類研究所　代表理事
国立大学法人 信州大学名誉教授　中村　浩志 氏

開催日　令和4年6月17日（金）
場　所　不二羽島文化センター　みのぎくホール（羽島市）
記念講演　**演題**：『最近10年の研究会活動を振り返って』
講師：岐阜県自然共生工法研究会
会長　藤田裕一郎 氏
特別講演　**演題**：『自然共生、これからの20年を展望する』
講師：名古屋工業大学　教授　萱場　祐一 氏

ボランティア長良川清掃活動

開催日　令和3年11月6日（土）　7:00〜8:00
場　所　長良橋上流左岸河川敷（岐阜市内）
参加人数　101名

美しい川の風景があることを訪れた人々が感じ、楽しい記憶の一つとして残してもらえるように長良川の河川敷清掃を実施しました。

植物生育環境・魚類生息環境勉強会（設立20周年記念事業）

開催日　令和3年11月26日（金）　10:00〜17:00
場　所　新丸山ダム工事現場周辺及び八百津町ファミリーセンター（加茂郡八百津町）
参加人数　14名

国土交通省の新丸山ダム建設では、工事の進捗に合わせて、植物や魚類の保全や生育環境対策が行われています。この取り組みについて、理解を深めるために、学習と現地確認の勉強会を開催しました。

新丸山ダム工事事務所と西條自然学総合研究所理事長より、環境保全の取組の概要、貴重植物の移植現場の説明を受け、駒田名古屋女子大学特任教授から、当該地域に生息する希少魚種が現状に至った理由と東海応用生物研究所の高田先生から採捕の方法を学びました。

参加者の方々からは、以下をはじめとするご意見、ご感想をいただきました。
- 工事に伴う動植物や周辺環境の保全はとても難しいということがわかりました。
- 新丸山ダムの環境対策はとても興味があったので見学できてよかったです。移植の失敗した場所や、他の植物の対策した所もみてみたいです。

「清流の国ぎふ」づくり

自然共生工法写真コンテスト（設立20周年記念事業）

募集期間　令和3年7月27日（火）〜令和3年8月27日（金）　応募数　12作品

岐阜県自然共生工法研究会では、県内各地で進められている自然共生への様々な取り組みについて、良い取り組みがなされている事例や、施工後の自然環境の回復・復元が良好な事例について写真を募集し、コンテストを開催しています。

令和3年度は12作品の応募がありました。受賞者の方々には、「清流の国ぎふ」づくり『自然共生』事例発表会において、表彰式を行いました。ご協力ありがとうございました。下の2つの写真は佳作の2作品です。

茶畑でマチュピチュ気分

春のそよ風を受けて

女性優先現地見学会（設立20周年記念事業）

開催日　令和3年11月22日（月）　参加人数　15名
場　所　**現地見学1**：糸貫川　清流平和公園（岐阜県本巣郡北方町高屋地内）
現地見学2：長護寺川（岐阜県瑞穂市田之上地内）
現地見学3：伊自良川（岐阜県岐阜市安食地内）
意見交換会：建設ICT人材育成センター研修室（岐阜県大垣市今宿）

建設現場における自然共生の取り組みについて、女性の関心を喚起するとともに新規女性会員の入会を促し、これまでの活動に新たな目線での助言や検討を加えて研究会活動を更に活性化することを目的に「女性優先見学会」を開催しました。

令和3年度は、自然環境の回復・復元や景観の修復・創造が良好な事例として、「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト表彰作品の現場等を訪れて理解を深めた後、民間で自然共生の活動をされている川合千代子氏（水環境もやい研究所）と清水佳子氏（天神川を考える会）からの話題提供と意見交換の場を持ちました。

参加者の方々からは、以下をはじめとするご意見、ご感想をいただきました。
- 河川工事上の自然共生の工夫が学べたり、見学したりする上、同じ業界の女性と交流もできて非常に役に立ちました。
- 利便性のみを考えた施工ではなく生き物との共生も視野に入れた計画が大切だと分かった。

魚道に関する調査・研究

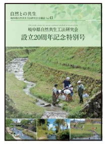
開催日　令和3年11月10日（水）
場　所　郡上土木事務所管内　吉田川　二間手砂防えん堤魚道他3箇所（郡上市明宝地内他）

魚道研究部会は、水生生物がすみやすい河川環境を再生・創出する一助として移動の連続性を確保するために、学識者や岐阜県と協働して魚道に関する調査・研究に取り組んでいます。

令和3年度は、木曽川水系長良川の一次支川である吉田川を対象に、「災害に強い魚道にするにはどうすれば良いか」をテーマとし、豪雨後に被災した魚道と被災していない魚道の違いについて、現地調査を実施し意見交換会を行いました。

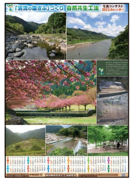
会報誌「自然との共生」の発行

vol.42


vol.43
設立20周年記念特別号

カレンダーの発行

○自然共生工法に関する取り組みについて、より多くの方に知っていただくため、「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテストの入賞作品を用いたカレンダーを作成しています。



各団体との共催事業

第9回「清流の国ぎふ」づくり「自然共生」事例発表会（主催：岐阜県）

開催日　令和3年12月1日（水）　参加人数　144名
場　所　ぎふ清流文化プラザ　長良川ホール（岐阜市）

自然共生に関する県内外の取り組み事例を「ハード部門」（4事例）と「ソフト部門」（4事例）に分けて発表を行う事例発表会と講演会を開催しました。

表　彰

ハードの部
○最優秀賞
「二枚貝、タナゴ類の生息環境改善を目指した湿地再生」
発表者：木曽川上流河川事務所　角田　直輝 氏
○優秀賞
「魚類の生息環境に配慮した鴻之巣頭首工工事の取り組み」
発表者：岐阜県西濃農林事務所　宇野　芳洋 氏

ソフトの部
○最優秀賞
「生息種が半減した河跡湖ビオトープ「トンボ天国」の環境改善に向けた生態研究」
発表者：自然共生研究センター　東川　航 氏
○優秀賞
「長良川扇状地区間におけるアユ時空間分布と産卵環境」
発表者：岐阜大学　鈴木　崇史 氏

研究会の構成

理事会

会長
藤田裕一郎（学）
（大）東海国立大学機構 岐阜大学　名誉教授

西條　好廸（学）
（一財）自然学総合研究所　理事長

森　誠一（学）
岐阜協立大学　地域創生研究所　教授

和田　清（学）
（独）国立高専機構
都城工業高等専門学校　校長

川合千代子（民）
水環境もやい研究所

清水　佳子（民）
天神川を考える会

寺町　茂（民）
環境省希少動植物種保存推進員
農林水産省環境相談員

栗山　貴稔（産）
（一社）岐阜県建設業協会　理事

安江　修平（産）
（一社）岐阜県特殊工事技術協会　代表理事

市橋　政浩（産）
（一社）岐阜県測量設計業協会　副会長

藤田　宏志（官）
岐阜県　環境生活部　次長

藤井　忠直（官）
岐阜県　県土整備部　土木技監

船坂　徳彦（官）
（公財）岐阜県建設研究センター　理事長

監　事

力石　克己（産）
（一社）岐阜県測量設計業協会　専務理事

和田　真吾（官）
岐阜県　県土整備部　次長

部会連絡委員会

各部会長及び部会員2〜3名

研究評価部会

部会長	藤田裕一郎（学）	（大）東海国立大学機構　岐阜大学　名誉教授
副部会長	和田　清（学）	（独）国立高専機構　都城工業高等専門学校　校長
アドバイザー	森　照貴（官）	（国研）土木研究所 上席研究員 兼自然共生研究センター センター長
部会員	西條　好廸（学）	（一財）自然学総合研究所　理事長
	森　誠一（学）	岐阜協立大学　地域創生研究所　教授
	原田　守啓（学）	（大）東海国立大学機構 岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授
	寺町　茂（民）	環境省希少動植物種保存推進員　農林水産省環境相談員
	林田　寿文（官）	（国研）土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 主任研究員
	板垣　修（官）	国土交通省　中部地方整備局　木曽川上流河川事務所　所長
	富田　直樹（官）	国土交通省　中部地方整備局　越美山系砂防事務所　所長
	古田　一彦（産）	（一社）岐阜県建設コンサルタンツ協会
	安江　修平（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会　代表理事
	西田　昌和（産）	岐阜県コンクリート製品協同組合　理事長
	飯島　竜二（官）	岐阜県　県土整備部　建設政策課　課長
	岩井　聖（官）	岐阜県　県土整備部　河川課　課長

人材育成部会

部会長	西條　好廸（学）	（一財）自然学総合研究所　所長
副部会長	加藤　剛（産）	（一社）岐阜県建設コンサルタンツ協会
	木呂子豊彦（学）	名古屋女子大学　非常勤講師
	清水　佳子（民）	天神川を考える会
	真鍋　昌伸（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会 自然共生技術委員会　委員長
	稲葉　傑（官）	国土交通省　中部地方整備局　中部技術事務所　所長
	小原　到（官）	岐阜県　県土整備部　技術検査課　課長
	名張　誠（官）	（公財）岐阜県建設研究センター　副理事長

企画啓発部会

部会長	栗山　貴稔（産）	（一社）岐阜県建設業協会　理事
副部会長	林　秀典（産）	（一社）岐阜県測量設計業協会　建コン技術委員会　委員長
	川合千代子（民）	水環境もやい研究所
	松野　守男（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会
	大久保清之（産）	（一社）岐阜県造園緑化協会　事務局長
	粟野　靖浩（産）	（一社）全国特定法面保護協会　岐阜県事務所　所長
	今村　穂積（産）	岐阜県土木用ブロック協会　副会長
	藤井　忠直（官）	岐阜県　県土整備部　土木技監
	吉川　尚文（官）	岐阜県　環境生活部　脱炭素社会推進課　課長

魚道研究部会

部会長	森　誠一（学）	岐阜協立大学　地域創生研究所　教授
副部会長	山口　政徳（産）	大日コンサルタント（株）
	増田　治雄（産）	揖斐川工業（株）　アイケイコンクリート部
	奥田　好章（産）	（株）ユニオン
	若園　陽司（産）	（株）テイコク
	林　哲郎（産）	（株）三進
	馬渕　剛（産）	（株）山辰組
	平田　亨（産）	（株）興栄コンサルタント
	渡部　健（産）	丸栄コンクリート工業（株）
	鷲見　拓哉（産）	大同コンサルタンツ（株）

事　務　局　（公益財団法人　岐阜県建設研究センター内）

（令和4年6月1日現在）